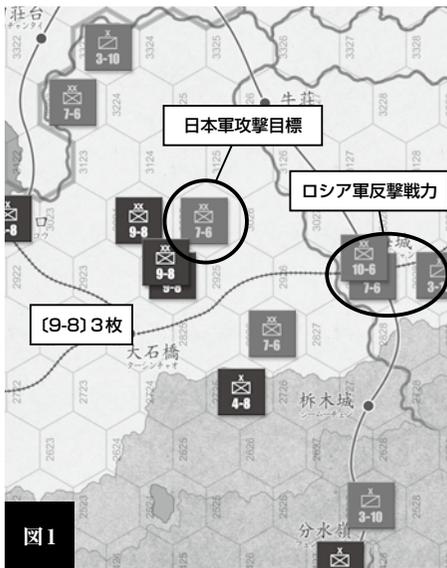


“天下御免の傘開き” 実戦図

状況

ロシア軍が、3223・3025・2826に〔7-6〕、3323・2527に〔3-10〕、遼陽への線路上に反撃戦力として〔10-6〕〔7-6〕〔3-10〕を置いている状況にて、ヘクス3025に対して日本軍が攻撃を行う場合



【図1】
〔9-8〕3枚で攻撃した場合

【図2】
EXRの場合、〔9-8〕の2枚で2ヘクスの追撃を行うと、どのように進めても、その後のロシア軍の反撃でどれか1枚が包囲攻撃を受ける形になってしまうため、有効な前進が出来ない。精々、2925と3025に進めるだけである。



【図3】
〔4-8〕6枚で攻撃した場合

【図4】
EXRで2枚が裏返っても、残る4枚は3025から3124・3125・3026・2925へ2ヘクスの追撃ができ、包囲攻撃をムープのみでは受けない。ロシア側が反撃戦闘を2箇所で行えば、包囲攻撃を受ける可能性はあるが、戦力を分散するのでロシア側のリスクも高くなる。

図4のように、ユニットが“傘を開いている”ような形で追撃するので“傘開き”と言います。日本軍がこの形での前進を地図上数カ所で行えるようになれば、ロシア軍は戦線の維持が大変困難になります。特に山岳地帯を突破せねばならない、黒木第一軍にとっては欠かせない戦術と言えるでしょう。

(文：山崎美鶴)